

の 広報 ほりばつ



特集

◆特集 登別の福祉

◆さらに

ハンデを乗り越え

歌集を自費出版

桑原吉興さん

3/1
1996
No.545



●ワークキャンプ研修会

先月号の東奔西走のコーナーでもお知らせした「中高生ボランティア体験学習・ワークキャンプ研修会」は、将来を担う青少年に、障害を持つ方やお年寄りとのふれあいながら、共に支え合う心の大切さを自らの体験を通して学ぶことで、今後の青少年ボランティア活動に取り組みきっかけとなることを目的として、市内に居住する中学生、高校生を対象に毎年1月と8月の年2回(小学生対象は年一回予定)、登別市社会福祉協議会・登別市ボランティアアセンダーが主催して行っています。

今回は、平成8年1月10日から3日間の日程で行われた「ワークキャンプ研修会」の様子をリポートします。

今回参加した15人の中高生のみなさんに参加の動機を聞いてみました。「将来の進路を考える上で福祉という道に進みたいから」という答えが一番多く、「興味があった」「人の役に立ちたかった」という答えもありました。

1日目

開講式、オリエンテーションを終えて午前中は「しんた21」内を見学。「建物のいろいろな所に工夫してあってびっくりした」と熱心に見学していました。

昼食後は福祉の現場を体験するための予備知識として、ビデオ学習や介護実技講習に移りました。

実技講習では、車椅子介助や歩行介助の基礎知識を学び、交替で障害者やお年寄りとの介護者の役になって練習しました。「考えたことのない世界だったけど、例えば右足に障害があつてつえをついている人を介助するときはその人のどちら側に立つて介助したらいいのかよく考えれば分かることだけど、いきなりやってみると戸惑いました。実際に介助される側の立場になってみてよくわかりました」「車椅子ってただ押すだけじゃだめだったんですね」など、初めて接した福祉の現場の奥の深さに驚いた様子でした。

予行練習を終えていよいよデイサービスレクリエーションに参加。デイサービスを利用しているお年寄りらと実際にふれあう最初の時がやってきました。

指導にあたった社会福祉協議会ボランティアコーディネーターの藤江さんは「みんな緊張と戸惑いでコチコチでした(笑)。でも、1日目は基礎知識と顔合わせを目的

にしていたのでまずまず成功だったのでは」とのことでした。

2日目

在宅障害者・高齢者のお宅に実際に訪問し、その生活の様子や話などを実際に見たり聞いたりする訪問活動が行われました。

「歩道になにげなく置いてある自転車は車椅子には大変な障害物である」「ボランティアやヘルパーはほとんどが女性であるため、力仕事や高いところの仕事などが困る」など、参加したみなさんは真剣に話に聞き入り、盛んに質問したりメモをとっていました。



▲この訪問活動をきっかけにその後も個人で訪問活動が続いている方もいるそうです

昼食はしんた21にもどってデイサービス利用者と昼食交流会。いままで少し緊張きみだったみ



▲会話はずみ、楽しいひと時

なさんも食事をしながらの気楽な雰囲気も手伝ったのか、自分から話しかけ、打ち解けていました。デイスサービス利用者のみなさんも「こんなにぎやかで楽しい食事



▲気がついたら即実行。障害を持つ方には車の雪はらいも大変な苦勞です

は久々だね」と大喜び。笑い声がたえない楽しい時間を過ごしていました。デイスサービスを受けている方の中で、心身障害者の方を対象に様々なサークル活動が行われています。書道、詩吟、カラオケ、音声ワープロなどそれぞれ自分の好みに応じてサークル活動を楽しんでいます。今回はその中で、西洋陶芸講座を体験しました。実際にデイスサービスを利用されているみなさんの指導のもと、おもいおもいの色をつけて一緒に楽しみました。



▲作品はそれぞれお土産にもらい、大切に持ち帰りました

今日1日ですっかりうちとけたおじいさんやおばあさんとお別れする時、朝の緊張でひきつった笑顔ではなく、心がそのまま顔に出たすてきな笑顔が印象的でした。



▲心からの笑顔で、バスが見えなくなるまで見送っていました

3日目

デイスサービス利用者の朝の送迎介助。会話を交わしながら自然に介助をしている姿は立派なボランティアでした。「やはり若いとい



▲とまどいや緊張は無くなり、自然に介助できるようになりました



◀シャワーベッドは横の穴から手を入れて体を洗います

▼入浴介助などには体力も必要

うことなんてですね。たった3日間でもこんなに吸収できるのは」と、指導の藤江さんも目を細めてうれしそう。そしていよいよ入浴介助。しんた21には一般的な浴場のほか、特殊浴室と呼ばれる部屋があります。ここは、プライバシーが完全に守られ、交差感染が予防されるシャワーベッドが備え付けられてあり、寝たきりの方や障害者が、ベッド



に横たわった状態のまま安全に入浴することが出来ます。実際に入浴介助を体験した中高生は「緊張したけど、だんだん気持ち良さそうになって鼻歌を歌ってくれたのがうれしかった」と言っていました。

反省会・感想交流会

期間中毎日行われていた反省会などで中高生のみなさんから出た意見や感想をまとめてみました。◎3日間の研修を終えて感想は「それまでは「かわいそう」と思っていたんです。でも、実際に



▲反省会は1日の研修日程の後、毎日行われました

を活用した施設があればいいのになと思っただ

3日間の研修を終えて、もっと深く福祉を学びたいと中高生ボランティアサークル「茶ばしら」に入会した方。将来、福祉の道に進みたいと考えた方などそれぞれ成果があったようです。

「何をしたらいいの？」から「何かしたい」として「学びたい」……この3日間で参加したみなさんの口から出る言葉も大きく変わりました



登別市社会福祉協議会・登別市ボランティアセンターでは、「ボランティアをやってみたくて何をしたら良いかわからない」、「自分の特技を人のために役立てたい」

など、ボランティアに関する相談や問い合わせには随時応じているそうです。

また、団体やグループなどに入っていない方でもボランティアセンターに個人登録しておけば、その力が必要な方への橋渡しもしてくれそうです。力仕事、楽器演奏、日曜大工、理容・美容など

●ホームヘルプサービス事業

みなさんはホームヘルプサービスをご存じですか？

寝たきりやひとり暮らし、などのお年寄りがある家庭や障害者など、介護や家事のお手伝いが必要な家庭にホームヘルパーが訪問し、お手伝いするシステムです。

担当の保健福祉課在宅ケア係の話では、「現在12名のヘルパーが市内の家庭を訪問し、活躍しています。今年度から介護している家族の方が色々な事情で介護できない場合など一時的、緊急的にサービスが必要になった時もサービスをこなしていますし、朝日時から夜日時までの間で利用者が利用したい時間に合わせたサービスも受けられます。視力に障害を持った方の外出などの際も土・日・祝祭日でもガイドヘルプサービスを受けられるようになっておりますのでご連絡下さい。職員がすぐお伺いしますのでみなさん活用してください」とのことでした。

なんでも自分の特技が人の役に立つなんてすばらしいことだと思いませんか？

▽問い合わせ

登別市社会福祉協議会・ボランティアセンター

(☎8800860)

そこで今回は実際に現場にお邪魔して、その様子取材してレポートすることにしました。

◆◆◆
今回はホームヘルプサービスを



▲原田さんは本当に楽しそう。笑顔が絶えませんでした

が一気に楽しい雰囲気にも包まれた。「家の中が明るくなるし、楽しみです。アドバイスや便利なものも情報、外の情報などをお話しするのも楽しみです。普段はテレビだけなので」と原田さんは言っていました。

「さて、今日は何をしましょうか」「カーテンのほころびを縫ってほしいの。あとはいつも通りでお願いします」互いの強い信頼が感じられる会話でした。後から聞いた「気がねなく頼まれるような信頼関係を作ることが大切」という言葉どおり、まるで家族のような会話だと思えました。

まず取り掛かったのは調理でした。調理は、要望によって出来上がりまで調理することもあるし、下ごしらえだけの時もあるとのこ



▲「どこに何があるか」まで知っているの作業は手際良く進んでいました

たのまれた事以外でも気がついた事は、ヘルパーさんの方から申し出ていました



▲「何でも言ってくださいね」。やさしく親しみのこもった応対



とで、好みや要望を聞きながら手際良く進められていました。(揚げ物などは危険なので最後まで調理することが多いそうです)

調理を終えて次に掃除に取り掛かる。その手際の良さに感心していると原田さんが「ヘルパーさんはどこに何があるのかまで知っているから、いちいち説明しなくてもスムーズに作業が進んでくれました。」と教えてくれました。

「お風呂用の洗剤がもう残り少ないからこの次買って来ます



▲ヘルパーさんは笑顔で絶えず楽しい雰囲気の中で作業をこなしていました

ね。あそこのスーパーで安く売っていたからそこで買って来ますね」生活必需品の買い物も安売り情報を提供してくれるなんてさすがは主婦。

その後は原田さんの要望で「洗髪」、最初の要望の「カーテンの繕

い」と、優しく、手際良くこなしていました。

作業の間も楽しい会話は続き、取材している私も一緒に楽しい時間を過ごさせてもらえました。最後に原田さんにインタビューしてみました。



▲取材に協力していただいた原田さん(幸町在住)

◎ホームヘルプサービスは最初からご存じでしたか。

「平成5年に病院から退院した時から利用しています。6、7年入院していて、その間は男だけの家庭だったんですけど、目も当てられないくらい汚れていたんです。いざその時になって掃除しようとしても入院前とは別世界で、最初は途方に暮れました。ホームヘルパーの制度があるのは知っていましたが、具体的な相談の窓口がわからず困りました。病院のケースワーカーや市の保健婦さんに相談してなんとか手続きを済ませて来

てもらえるようになりました。

◎他人に家の中の事をやってもらうことに抵抗がある方が多いと聞きましたか。

「最初は自分の家をのぞかれるような気がしてちょっと抵抗がありましたし、気心知れるまでだいぶ遠慮もしていました。今では週1回のこの日が楽しみです。いろいろな方と知り合えて楽しい。また、来る人がみな素敵な人ばかりで

すね。今では姉妹にも言えないことも言えます(笑)。一緒に泣いたり笑ったり喜んだり。ヘルパーさんの交替のときにはつい涙ぐんじやう。これは信頼以外の何物でもないと思います。」

◎原田さんは自立生活しようといへんな努力をされていますね

「失った機能もあるけど使わないうるんなことに参加したいですね。残された機能で何かできることがあれば人のために役立つこともしてみたいと思います。」

市では、今回紹介したホームヘルプのほかに、パートヘルプ(一時的なヘルパーの利用)など在宅福祉についての相談をお受けしています。

▽ヘルパー制度に関する問い合わせ 保健福祉課 在宅ケア係(しんた21内)

☎(05)0100

◆ 広報のほりべつでは今後「福祉」については、特集などで取り上げていきたいと考えています、ご意見・感想などありましたら、どしどしお寄せください。

◆ 総務課広聴広報係

☎(05)1130

札幌雪まつりに

閻魔大王登場!!



▲迫力満点!! 今にも動き出しそうなほどリアルな閻魔大王の雪像



札幌市で開かれた第47回さっぽろ雪まつりに、登別地獄まつりのシンボルである閻魔大王の雪像が初登場しました。

この雪像は全国の有名な祭りを題材に毎年雪像を作っている札幌市民グループ「札工OB雪遊会」のみなさんが製作した。「日本のまつりⅢ登別地獄まつり」で、実物より一回り大きい中雪像です。

2月8日には、登別から地獄大行列、湯鬼神、テーマパークのキャラクターらがお礼とPRをかねて大パフォーマンスを繰り広げました。

厳寒を吹き飛ばす!!

勇壮湯かけ合戦!



2月3日・4日、登別の冬を代表するイベント、「登別温泉湯まつり」が開催されました。温泉街を湯鬼神たちが厄を払いながら練り歩き、メイン会場の登別パラダイス前の広場で郷土芸能「湯鬼神かぐら」「子宝もちつき舞」が披露され、つきたてのもちが振る舞われました。

4日の夜には祭りのめだまでである「源泉湯かけ合戦」が行われ、氷点下4度の寒さの中、下帯姿の若者60人がダイナミックに湯をかけ合い、立ちのぼる湯煙がまつりのムードを盛り上げ、湯しぶきを浴びながらも観衆からは大きな歓声が上がっていました。

私が見た登別

北海道なのに雪が少なくて驚きました

あら 荒谷英男さん
(登別東町)

—いつ登別に来ましたか？
平成6年7月に就職のために秋田県秋田市から来ました。

—秋田市はどんな街ですか？
駅前は大バートなどもあって大きい街ですが、ちよつと郊外へ出ると、一面たんぼが広がっています。雪とたんぼの多いところですね。

—登別を知っていましたか？
僕自身2歳まで白老町の竹浦

に住んでいましたし、祖母が現在も竹浦にいますので、小さいころは夏休みなどによく遊びに来ていました。地獄谷やクマ牧場に連れていってもらったのを覚えてます。

—登別に住んでみての感想は？
自然がいっぱいあるという印象ですね。北海道なのに雪が少ないのには本当にびっくりしました。雪は少なくても、冬はやっぱり寒いですね。

—食べ物、魚やイカがおいしいです。

—登別に望むことは？
登別駅前に住んでいるのですが、街は寂しい感じがします。デパートやお店がたくさんできるといいですね。

奔

東



楽しいよ、札幌っ子の冬まつり

冬まつり

2月3日、札幌小中学校で「第16回雪まつり」が行われました。青空の下、真っ白な雪がまぶしく広がる同校グラウンドには、雪で作られたバスや、大きな象のすべり台など手づくりの雪像が並び、札幌っ子は大喜び。先生やお父さんお母さん、地域の人たちと一緒に豚汁やつきたてのもちを味わいながら楽しい一日を過ごしていました。

家族そろって冬を満喫!

2月10日、川上公園で第7回ふるさと冬まつり（登別市ふるさと広場実行委員会主催）が開催され、大勢の市民が楽しい冬の日を過ごしました。会場では「ジャンボすべり台」や「かまくら」、ソーセイジなどを自分で焼いて食べる「焼いて食べてコーナー」など、さまざまなイベントコーナーでちびっ子の歓声が響き、ふるさと登別の冬を家族で楽しんでいました。



仲間たち

健康づくりと地域の交流に

鷺別社交ダンスサークル

会長 紺屋 与三夫さん

(TEL) 86-8545



鷺別社交ダンスサークルは、ダンスが好きな方々が集まり、昭和60年1月に発足しました。現在会員は50代、70代を中心に約50名で、鷺別・美園地区の方が多く、健康づくりと地域の交流を目的に毎週土曜日の夜、鷺別公民館でダンスを楽しんでいます。

社交ダンスを始めたきっかけは、「健康のため」という方が多く、背筋をピンと伸ばして踊ることは体にも良く、3時間の練習後はうっすらと汗をかきほぐすので、運動としても最適だそうです。

会員の方々は、「楽しみながら健康づくりができていいですよ」「踊ることはとても楽しいですね。ウキウキして若返ります」といった声がたくさん聞かれました。毎年6月と12月にはダンスパーティーを開き、他の地区のダンスサークルとの交流もしています。

副会長の久保さんは「足の腰の運動にもなるし、いろいろな方と交流できることが社交ダンスの魅力ですね。踊ることはとても楽しいですよ。社交ダンスはステップがたかさんあって最初は難しいかもしれませんが、1年ほどで踊れるようになりますから、若い人にも始めてほしいですね。会員は随時募集していますので、気軽に参加してください」と話してくれました。

わたしの趣味

ペットボトルロケット



佐藤 勝明さん
(桜木町)

佐藤さんは陶芸、釣り、スキーなど、じつに多くの趣味をお持ちです。「頭で考えるより即実行型ですね」との言葉どおり、おもしろそうと思っただ事はやってみないと気が済まないそうです。そんな佐藤さんが今熱中しているのは「ペットボトルロケット」です。

ジュースなどの容器のペットボトルを利用して作るこのロケットは、空気圧と水圧を利用して飛ばすほど飛ばそうです。

「始めた動機はいたって単純。新聞の記事を見て、どんなものかと思ってとりあえず部品を注文しちゃったんです。本当に飛ばすのか半信半疑だね。そして試して作って飛ばしてみたらびつくりするぐらい飛んだんですよ」

佐藤さんのロケットは、おりからのスペースシャトルブームにのった形でどんどん広がっていき、町内会でのペットボトル回収の協力、



▲ペットボトルロケット発射の瞬間。水しぶきを上げて100m以上も飛んで行きました

市内イベントなどでの実演などが新聞などで取り上げられ、現在では仲間も増えて、全日本ペットボトルクラフト協会に登別支部として登録申請中とのことです。

「ペットボトルロケットの楽しさは、まず、自分で作ることで自分で飛ばすことです。空気抵抗やバランスなど、きちんと作るときちゃんと飛ばす。親子で楽しみながらサイクリにもつながるし、子どもと科学の話までできちゃいます」

今の人気の過熱には少し戸惑っている様子でしたが、それでも「子どもたちを喜ばせるのが楽しみなんです。夏に大会などもやってみたいですね。あと、講習会などもやってみたいですね」と、やさしく話してくれました。

ゆけむりネットワーク 登別応援団

知名度、 拔群 “登別”



こばやし しげはる
小林重晴さん(58歳)
(東京都世田谷区在住)

昭和28年登別中学校卒業。
北の養酒造(株)
東京げんきかい会長

「ハア、名どこ湯どころ、可愛の花が…」昔歌った登別温泉小唄をお風呂に入るたび口ずさみます。先日「旅の宿・登別」という入浴剤を買ってきて、世界に誇る登別温泉に入った気分になり、故郷登別を思い出しております。

生まれてから中学校まで過ごしましたが、子どものころ木炭バスが国鉄登別駅から温泉に向かう坂道で、ブーブー音を立てながら上がっていく光景が脳裏に刻まれております。冬など、バスの後ろにソリのひもを引っかけ坂の上まで上がり、滑って遊んだ悪童時代を今でも懐かしく思い出しております。

先日、長崎でのお得意様との会合の中で、札幌雪まつりに行く帰りに登別温泉に泊まることになりました。私が登別出身だと言うことで話が弾み、興に乗じ冒頭の登別小唄の一節を披露、登別観光の一役を担う事ができた

と自負しております。全国を仕事で歩く私ですが、登別の知名度は札幌以上のものを感じます。このたび、図らずも縁があり「東京登別げんきかい」の会長を拝命致しました。大きな責任に身が引き締まるおもいです。登別市と東京在住の方々との交流を深め、登別市の発展に全力を尽くす所存です、今後とも宜しくお願いします。



▲昭和20年代に実際に走っていた木炭バス
(道南バス七十年史より)

登別郷土文化研究会 宮武 紳一

「札幌本道」登別を通る(3)

幌別川・蘭法華坂の難工事



▲50年前の蘭法華坂登り口付近
(札幌本道跡)
◀現在の蘭法華坂



「新道出来方絵図」をみると、約120年前の現在の国道を中心とした登別の村落の状況が分かります。新室蘭トキカラモイの一番杭から札幌まで4千40本。幌別川の西側が橋番、幌別川東側の黒沢商店辺りが3番杭である。杭は距離というより地形をみて打ち込まれたらしい。

栄町3丁目の帝国酸素辺りに3

軒の家屋が見えるが、ここは明治34年に初めてできた鶯別停車場の所で、後に現在地に移された。

また、若山町3丁目東側の高台付近に「ワシベツライバ」の地名があり5戸ほどの家屋がある。明治29年陸地測量部図にある「トンケシコタン」の場所、「トンケシの兎と津波」の伝説も近くにあることは点描34号で紹介した。

大海戦術で進めた札幌本道の工事最大の難所に、水量溢れる幌別川と急峻な蘭法華坂があった。

幌別川の西南、現在の緑町・桜木町・大和町の各1丁目、国道と鉄道沿線の広大な地域は、登別南高校・吉鷹牧場方面の山麓から流れるトンケシ川・フレベツ（赤い

川)の谷地川が大湿地帯をつくり特に、現地理め立てられ工業団地に造成された大和町1丁目は、幌別川水流の溜まり場で上記の川も合流し大きな湖沼の情景があった。鶯別から海岸に沿って造成された札幌本道も、大和町1丁目から若山町1・緑町3丁目自衛隊前中央通り方向に切り変えられるがこの地帯は、道路に沿って海退時代の帯状のやや低い砂丘が、津村商店付近まで発達していたので道路に選ばれたのであろう。

ところが、前述の幌別川南西付近の「新道出来方絵図」をみると、幌別川が大きく蛇行し、湖沼状の水域に、幅の狭い陸地が入り込み辛うじて道路が造成されている。また道路に外れた所に幌別橋があるのも不思議である。

「開拓使公文録」によると「幌別川は砂川にて、俄に出水するに より橋を架すれど流失せり。また橋を架すれど出水の時は、橋台の一方に水が張る由にて、船に非ざれば渡る能わざるにより馬船二隻を備えたり」と記録しています。

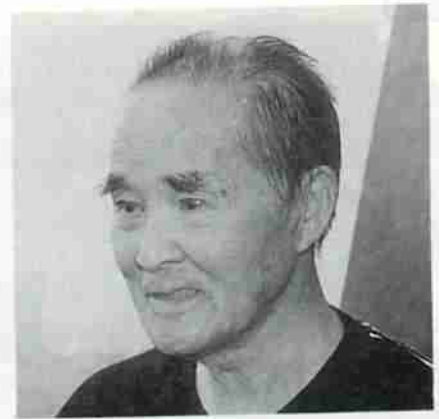
川幅は約70mあるが、東西の川岸を砂利・土で高く埋めたて、柳の枝木を当て丸太を打ち込んで崩落を防ぎ補強して58mの橋を架けたが、洪水で一溜まりもなく道路部分の土砂も流出、橋脚に流木も引掛かり取えなく流されたらしい。

最初の橋が造られた場所は、西側は現在の鉄橋から、東は国道の方向である。

橋の流失後は、やや大型の渡舟2隻を備え、再度、橋が造られたのは明治14年(1881年)、明治天皇行幸の時代であるがこれも間もなく流失。次に上流の登別大谷高校前が主道となり橋も造成されるがやはり流失し渡舟が使われていた。次に、札幌本道工事の最大の難所は、岸壁の立ちはだかる蘭法華坂である。

公文録に「蘭法華の坂路は險阻にして百尺(約30.3m)に五尺(1.5m)以上の勾配にて開削せり。岩石を破裂せしむるには火薬を用い莫大の費用で開削せり」とある。道路は、現在の国道を富浦町4丁目、胆振家畜保健衛生所前から山側の方向に進み、現在の国道より高い位置に道路があって、市の火葬場南側の高台の道路に出て登別小学校前を通った。

標高約80m、クツタラ火山の厚い凝灰岩を鑿て堀り、火薬を仕掛け爆破する。残った岩は楔をいれて小さく割り、畚で土砂とともに運び、鋤で整地する。労働は苛酷であるが道外から集めた貴重な労働者を、仏坂の大惨事のようなことで開拓使の大事業が遅れては面目丸潰れであることから蘭法華坂の工事は表面は穏やかであった。



きらり

ハンデを乗り越え

歌集を自費出版

桑原吉興さん
(中登別町)

特別養護老人ホーム緑風園(中登別町)に入園中の桑原吉興さんが、歌集「春楡の詩」を自費出版しました。

脳梗塞で倒れ右半身不随となりながらも、今まで作り続けてきた作品を、活字で後世に残したいと、不自由な体でまとめたものです。

完成の歌集を手にし、喜びの桑原さんに話を聞きました。

「短歌を始めたくっかけは、昭和の初め頃です。」

もともと、文学に興味を持っていて、作家になりたかったんですが、ちょうど短歌ブームもあり、時代の流れで短歌を始めました。

「短歌の魅力は」

自分の気持ちや心の動きを、思ったとおりに言葉で表現できるというのが魅力です。

「歌集を出そうと思ったきっかけは」

今まで書きためた作品を一冊の本にまとめて後世に残したいと考えていました。ちょうど、昨年88歳を迎えるということ、米寿の祝いに歌集を出そうと準備を進

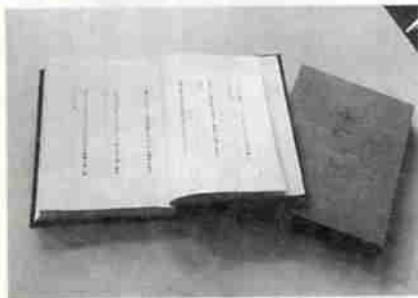
めていた最中、病に倒れ、出版を途中で断念せざるを得なかったんですが、今回なんとか出すことができました。

歌集は、200部印刷しましたが、家族や関係者に贈りたいと考えています。

「夢を聞かせてください。」

これからは、より人間的な作品を作りたいですね。そして、どうなるか分かりませんが、次の歌集を出したいと考えています。

「自分の生きざまを、活字としてこの歌集に残せた喜びは何ともいえない」という桑原さん、これから体にも気をつけて、人間味あふれる作品を作り続けてください。



▲桑原さんの思いが込められた歌集「春楡の詩」

フレッシュフェイス



もりした と き え
森下 登紀江さん

登別町・24歳 株式会社宝業ファミリーパーク 登別サティ勤務

登別サティに勤務して、2年目の登紀江さん。毎日、明るく笑顔で頑張っています。

「仕事について教えてください。」

食品売り場のレジをしています。いろいろな人と接する職場なので、難しい面も沢山ありますが、勉強になります。

時には、思ったように自分のことを表現できなくて、誤解されてしまうということもありますが、どんな時でも笑顔でお客様に接するように心掛けています。

立ちっぱなしの仕事なので大変ですが、仕事は楽しいです。

「今、一番興味のあることは。」

やっではないのですが、スノーボードに興味を持っています。

今、はやってますし、見て面白そうですね、私にもできそうなので、来シーズンはチャレンジしてみたいです。

「登別市についてどう思いますか。」

登別といったら温泉ですね。仕事の関係で、なかなか泊まり掛けはできませんが、らぶ湯カードを一度利用しました。温泉が一層身近に感じられました。

「登別市に望むことは。」

最近、観光施設がいろいろできましたが、小学生から大人まで幅広く遊べるような遊園地があってもいいなと思います。

マリパークに遊園地ができるそうなので、楽しみにしています。

NTTからのお知らせ

第3回 幌別川ネイチャーフォーラム(講演会)

遠TONE音コンサート

幌別川を育てる会主催

講演会

自然のやさしさがわかりやすく伝わります。

▽日時 3月17日(日) 13時~15時

▽場所 市民会館大会議室

▽聴講料 資料代として300円

▽講師 福留脩文氏(河川工法研究家)、小川敏氏(エコ・ネットワーク代表)

コンサート

財団法人北海道文化財団共催

北海道出身の尺八・三塚幸彦、ギター・曾山良一と琴の小野美穂子が奏でる北海道音楽です。

▽日時 3月17日(日) 開場15時 開演15時30分

▽場所 市民会館大ホール

▽入場料(前売り) 1千円・全席自由、(当日) 1千200円

▽問い合わせ 幌別川を育てる会事務局(☎5736阿部さん)

(☎1581高見さん)

NTTからのお知らせ

電話移転のお申し込みがファクスで簡単にできます。

FAX専用

0120-882116

電話「116番」や窓口でもお申し込みできます。

お申し込みができます。

電話「116番」や窓口でもお申し込みできます。

お申し込みできます。

お申し込みできます。

お申し込みできます。

お申し込みできます。

お申し込みできます。

お話し中調べ専用番号

「114番」を新設。

電話の故障問い合わせは

「113番」へどうぞ。

▽問い合わせ NTT室蘭支店サ

ービス企画担当(☎8985)

(☎1436)

リフォーム(住宅改良)

ヘルパー派遣事業

を実施します

市では、4月1日から、高齢者

や障害をもつ人々などが、生涯を

住みなれた家で快適に暮らすため

身体状況に適した住宅の改良や将

来を意識した新築について、福祉

保健及び建築関係の職員などがチ

ームを組んで、いつまでも安心し

て暮らすことができる家づくり

のための相談や指導助言を行います

ので気軽にご相談ください。

▽相談窓口 社会福祉課

(☎1911)

バドミントンスポーツ

少年団 団員募集

登別市バドミントンスポーツ

少年団は、新年度の団員を募集しま

す。

▽対象・募集人数 小学3・4

5年生、各若干名

豊浜トンネル崩落事故

被災者の家族を

励ますポスト

を開設しました

2月10日に古平町豊浜トンネル

で発生した崩落事故にあわれた方

の家族への見舞い文や見舞金の受

▽活動日 毎週土曜日、13時30分

~16時まで

▽活動場所 総合体育館

▽活動費 月団費700円、入団費な

ど1千100円、親の会年会費2千

400円、その他傷害保険料など

▽申し込み・問い合わせ 3月16

日(土)まで寺山さん

(☎1436)

「被災者の家族を励ますポスト」

を開設しました

2月10日に古平町豊浜トンネル

で発生した崩落事故にあわれた方

お詫びと訂正

広報のほりべつお知らせ版

「くらしのガイド」2月15日

号6ページで「12人の恐れる

男達」とあるのは「12人の怒

れる男達」の誤りでした。お詫びして訂正します。

となりまち ホットライン



昔のポスター・看板、縁起ものコレクション展

昭和初期のころの懐かしいポスターや木製の看板、新巻にふさわしい縁起物の置物などを展示します。

この機会にぜひ、ご家族そろってご覧下さい。

▽期間 3月1日~31日(月曜日、祝日の翌日を除く)

▽時間 9時~17時

▽会場 室蘭市民会館

▽展示数 約50点

▽入館料 大人50円 子供30円

(詳細) 室蘭市民会館

☎40000

伊達市 第9回 春の合宿村祭りを開催します



雪解けの早い伊達の春を全体的に盛り込もうと、今年も「春の合宿村祭り」を開催します。

全道でも一番早い時期の開催となる「春一番伊達マラソン大会」も、家族みなさんで参加ください。

▽日時 4月10日(日) 10時30分受付開始 11時スタート

▽集合場所 伊達市の柱庭車庫

▽種目 一般男子5、10、一般女子5、少年男子5、小学生男子、女子10、参加料 小学生1千円、中学生以上1千500円

▽申込締切 3月25日(月)まで

▽申込先・詳細 体育振興課体育振興係

☎40000

うらびょうし



「こわいよ～ たすけて～」

登別温泉湯まつり期間中の2月3日、温泉保育所は緊張に包まれていました。お湯の神様「湯鬼神」がやって来るというのです。湯鬼神は温泉の守り神ですから、ふだん温泉街では「鬼は外」と言われることは無く、逆に厄を払ってくれるので歓迎されるほどですが、温泉保育所のちびっ子にとっては怖い存在。湯鬼神が登場すると豆をぶつけながら、その迫力に圧倒されて泣きながら逃げ回っていました。

中には、お面の下が本当のお父さんだと知らずに、抱き上げられて大泣きしているちびっ子もいました。

人のうごき

- 人口 57,422(-35)
 - 世帯 22,645(-15)
- ()は前月比

平成8年1月末日現在

鳥名 イカルチドリ
観察時期 一年中(と思われる)



(文・写真提供 自然愛好グループヨシキリの会)
●問い合わせ 伴野さん (☎85-7515)

ボクはイカルチドリ。「ムム、見かけめ顔だ」なんて言わないで、れつきとした幌別川の常連で、年中川原で暮らしてるんだよ。小石の上をチヨコマカとジクザクに、足早に動いているよ。立ち止まると石カボクか解らないからね。もちろん卵もヒナも保護色でまるでかくし絶だよ。

今、本州のチドリ族の悩みは、川原に大勢の人や犬や車が入り込んで、愛しい子どもたちが踏みつぶされる悲劇が後を絶たないことなんだ。

ボクらの子育ては、オスメス平等に行うんだ。ヒナに危険が迫ったときは必死に守るんだよ。翼を傷めたふりをしてわざと外敵の前に身をさらして巣から敵を引き離すんだ。そんなボクを見たときは、遠くに離れて見守ってね。

